



私の
**なんとか
しなきゃ!**

Vol. 22

生きる価値を知る

ミュージシャン **真戸原 直人**

アンダーグラフ



PROFILE (アンダーグラフ)

1999年結成。2004年にシングル「ツバサ」でメジャーデビュー。50万枚を超える大ヒットとなった。その後も数々の作品を発表し、国内のライブ活動も積極的に進行。CDの売り上げの一部を開発途上国のワクチン購入に寄付するなどの国際協力にも取り組む。「なんとかしなきゃ!プロジェクト」著名人メンバー。

小さいころから野球をやっていて、将来は野球選手になりたいと思っていました。でも、高校の時にひじを壊してしまい、夢をあきらめなければならなかったんです。ずっと野球一筋の人生だったのですが、それから新しい世界を見ようと欧米の映画や音楽に触れ始めて、自然と海外にあこがれを抱くようになりました。

大学は国際言語学部だったので、開発途上国に足を運んでいる人もいました。そのころはすでにミュージシャンになると決めていたのですが、友人たちから途上国の話などを聞き、「日本という恵まれた環境で育って、自由に夢を抱けるのはとても幸せなこと。もし将来夢がかなったなら、困っている人に手を差し伸べられるような大人になりたい」と思っていました。

デビュー後はがむしゃらに突き進む日々でしたが、ある日テレビを見ていて認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを 日本委員会 (JCV)」のCMに目が止まったんです。野球選手のワクチン

寄付の活動を紹介するものでした。その時、学生時代の思いがふとよみがえってきて、心が揺さぶられました。いてもたってもいられなくなり、JCVの事務所に電話をしたのが始まりです。

そして2008年からJCVを通じて、途上国の子どもたちのワクチン購入のためにCDの売り上げの一部を寄付しています。メンバーも僕とまったく同じ気持ちでうれしかった。ただ、どうせやるのなら中途半端ではなく、自分たちのポリシーをきちんと持ってやろうと。根本の思いにブレがなければ、周りから何を言われても大丈夫だと思ったからです。

ファンの皆さんも、僕たちの活動を純粹に受け止めてくれました。「自分自身は何もすることができないけれど、好きな音楽を買って、それが誰かのためになっているならうれしい」と言ってくれています。ちゃんとみんな分かってくれているな、一生懸命やれば心意は伝わるんだなど、胸がいっぱいになりました。

この活動を始めて、もう4年になりま

す。ワクチンを受け取った子どもたちの未来がどのように変わっているのか、現地に行ったことがないので、正直まだ実感がありません。でも、ここまで続けてきたことには胸を張れる。100%立派な人間にはなれないけれど、国際協力に携わることで、自分が生きている価値を少し見だせたような気がします。

誰かに何かを“伝えたい”と思って続けてきた音楽ですが、東北の被災地で歌った時、せめてこの時間だけでもここにいる人たちに楽しい気持ちになってほしいと強く感じました。それがこの仕事の本質だと気付いたのです。今度はワクチンの届け先である途上国の子どもたちと一緒に、音楽を通じて交流ができればと思っています。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトを中心に、さまざまな国際協力のカタチを提案していきます。[なんとかしなきゃ.jp](http://nankashinaky.jp)
詳しくはこちらから→